

〈史料翻刻〉

紀州藩家老三浦家文書（二二二）

—江戸出府日記・御用番留帳—

上村雅洋

凡例

- 五〇 江戸出府日記（寛文九年九月一四日～九月晦日）
- 五一 江戸出府日記（寛文九年一〇月朔日～一〇月晦日）
- 五二 江戸出府日記（寛文九年閏一〇月朔日～閏一〇月二九日）

凡 例

一 本文書は、和歌山大学紀州経済史文化史研究所所蔵の紀州藩家老三浦家文書であり、日記類を中心にほぼ年代を追って逐時翻刻する。三浦家文書については、本誌第四号所収の「紀州藩家老三浦家文書目録」を参照されたい。

一 史料名は、できるだけ「紀州藩家老三浦家文書目録」を踏襲した。




一 使用字体は、常用漢字を用い、それ以外は異字・俗字・略字もなるべく原文のままを尊重した。

一 仮名文字は、江・而・者・茂以外は、すべて現行の字体に改めた。

一 印刷にさいしては、なるべく原本の体裁をとどめることを原則としたが、組版の都合上一部改めた。

一 本文が訂正されている場合は、書き改められたものを採用した。

一 印章はいちいち模刻せず、・のように輪郭を模した。

一 虫損・破損などによって文字が判読できない場合には、字数を推定して□で埋め、字数が推定できない時は、をもってその箇所を示した。

一 本文以外の部分は、上下に「」を付し、(表紙) (端書) (異筆) (付箋) などと傍注した。

一 文字の誤脱などには()で傍注を加えたが、判読可能なものについては、特に注記しなかったものもある。

一 文意の通じないもの、疑義のあるものには(ママ)と傍注し、推定可能なものには(カ)と傍注して意見を示した。

一 本文書の筆耕ならびに校訂は、上村雅洋(経済学部教授)が行なった。

五〇 江戸出府日記

〔表書〕
寛文九年

西ノ九月十四日

九月十四日 八時分ち雨降

今朝六半時分ニ和歌山ヲ出、^(信)し達ニ而休、堺へ暮合ニ参着
一 菅沼喜右衛門奉ニ而堺迄以飛脚、結構成御茶兩種并葱冬酒
致拝領、重畳過分忝仕合とも也

同十五日

堺ヲ夜明ニ出、平方ニ休、夫方八幡江参詣仕、伏見へ夜ニ
入、五前ニ参着

同十六日

伏見ヲ夜明ニ出、三十三間、大仏、清水、祇園、誓願寺な
と通りかけニ見物候て、四前ニ新町通り之高嶋屋吉兵衛所
へ参着

一 板倉内膳正殿家老共方迄為使者岡七郎兵衛指遣、口上ハ今
度大納言殿被致参府候ニ付、拙者儀致供従跡上海道罷下候
ニ付、内膳殿へ為御見廻、爰元へ参候、能様ニ各御指図頼

入候由申遣候処ニ、則内膳殿御返事ニ明日ハ不叶障入有
之候間、明後朝参候様ニ幸料理可被成由也、就夫又右之者
為使者指遣候、明日ハ御障入御座候間、明後朝参候様ニ
御料理可被下由忝次第ニ御座候、必以参可得御意候、併御
障無御座内被懸御心候段、如何と存候、御礼旁如此ニ候、
可然様ニ御心得給候様ニと家老共迄申遣候処ニ、又内膳殿
御返事ニ念入候通、御満足之由、弥明後朝可参候、自然御
障入も出来候ハ、拙者儀ハ御心安候間、料理ニも御かま
い被成間布との儀也

同十七日 夜ニ入雨降

今朝五時分ニ柳ノ水御屋敷へ参、御座敷など見申、夫方上
加茂へ参致見物、夫方下加茂た、すノ明神へ参候、但下加
茂ノ社人申候ハ、下加茂と諸人申候ハ、中加茂と申候た、
すヲ下加茂と申候由申聞候

一 夫方百万遍、吉田、黒谷、知恩院致見物、扱長楽寺へ参、
安徳天皇之御衣ニ而御仕立候御はた拜見いたし、今朝加茂
へ参候刻、庄三郎所へ立寄、早々罷通り候ニ付、長楽寺ニ
而庄三郎情進振廻いたし、火とぼし時分ニ帰宿仕候

同十八日

今朝五前ニ内膳殿へ参、御用しげく候てしばらく相待候へ

共、内膳殿御障不明候ニ付、料理給候様ニと使給、則料理出し酒出時分、内膳殿御障明大之御用故、相伴ヲも不被成候との懇成あいさつニ而候、此方も早々御入候て御支度被成候様ニと申候へハ、左候ハ、是ニ而緩々と酒ヲ給候様ニと之あいさつニ而御はいり、度々使御出し、酒も五へん出、後段も出候、追付湯出申候、扱茶くわし出、手水いたし候上、追付こい茶ヲ内膳殿御持出給候、扱御咄候而殿様御伝言之通も申達、緩々と御咄候間、御用しげく相見へ候ニ付、早々罷立候へハ、御残多候間、上リニハ必又寄候様ニと懇成あいさつにて玄闕迄御おくり候、今朝ハ葱冬酒箱肴持参申候

一今朝之相伴小倉惣兵衛、同百助也、我等儀内膳殿ヲ出、神泉苑一見いたし、扱帰宿仕、追付京都罷出候四過也

一毘沙門堂御門跡御寺出来、以後終ニ御見廻不申候ニ付、山科之御寺へ参候処ニ、則御対面御料理可被下と被仰候へ共、辞退仕候へハ、左候ハ、路次之さしハリニも可成とて吸物ニ而御盃被下、扱毘沙門堂へ参詣いたし候様ニと被仰参詣仕候処ニ、又それへも御門跡御出ししばらく御咄被成候、扱

御暇乞申罷出候巻物持参仕候

一毘沙門堂罷出、大津へ七前ニ参着、則一宿仕候

一本多兵部殿ハ大津へ使者給候、拙者儀今度致御供罷下候由御聞候旨にて両種給候、則為礼緒方清大夫持越申候

同十九日

大津ヲ未明ニ罷立、石部ニ而休、坂下へ暮合前ニ参着、路次遠ク候故、草津土山ニ而も少つ、休

一膳所ヲも未夜入内通り候処ニ、町中ニあんどんなど出し、町迄使者御出し馳走也

同廿日

坂下ヲ未明ニ罷立、関ニ而夜明ル、今日ハ石薬師ニ而休、桑名迄参答ニ有之処ニ、未白子ニ御逗留被遊候、明日白子ハ熱田へ御渡海被遊答ニ御座候由、市十、平次右之飛札関ノこなたニ而参合候ニ付、則関ノ宿へ立寄返状認、扱直ニ指越候者、又白子へ召連候者の人わけなといたし、直ニ白子へ参候、昼前ニ白子へ参着仕候処ニ、大殿様御のんきニ御出被為成、頓而御殿へ被為入候節、則致御目見候処ニ、はやく参候由、御意ニ而しばらく御前ニ罷有、仕合残所無之退出仕候

一八時分ニ被為召、又御殿へ罷出、夜ニ入帰宿仕候、御殿ニ
而畔田半右奉ニ而そうめん致拝領候、則右迄御礼申達候

同廿一日

大殿様御機嫌能、今朝五過ニ白子御出船被遊、熱田へ七時
分ニ御着岸、則御一宿被遊、明晩ハ池鯉鮒ニ御一宿之筈ニ
御座候故、拙者儀今日者白子ニ逗留仕、明晩桑名ヲ熱田へ
渡海仕筈ニいたし候

同廿二日

今朝四時分ニ白子罷出、昼休なしニ七時分桑名へ参着、支
度いたし日ノ入時分出船、夜ルノ四半時分ニ熱田へ着船致
逗留候へハ、尾州様ヲ御使者被下候へハ、如何ニ存追付夜
半時分熱田罷出、いも川ニ而夜ヲ明し申候

一拙者罷立候以後尾州様ヲ為使者戸田忠兵衛殿と申仁被成下
候由、後ニ承候

同廿三日 七時分ヲ雨降

いも川ヲ五前ニ罷出、池鯉鮒之御宿へ致伺公候処ニ能時分
出御前致参上、則御目見仕、御機嫌残所無御座、御酒給候
様ニと御意ニ而御酒被下候、五過池鯉鮒出御被遊候、夫ハ
宿へ参、緩々と支度仕、昼時分池鯉鮒罷出、七時分藤川へ

参着一宿仕候

一大殿様今晚ハ赤坂ニ御泊り被遊候

同廿四日

大殿様今晚ハ新井ニ御泊り被遊候、拙者儀今朝五時分藤川
罷出、五位ニ休、白須賀へ七過ニ参着、一宿仕候

同廿五日

今朝六半前ニ白須賀罷出、新井之御宿へ致伺公候処ニ、中
根平十郎殿、相鹿長兵衛殿御出候、拙者儀御対面前ニ致御
目見忝御意ニ而、扱右之衆へ御対面之節御あいさつ申上、
御出船以後新井之宿へ参、緩々と支度いたし、昼前ニ新井
出船、浜松へ七前ニ参着、一夜仕候

一大殿様之御晩ハ見付ニ御泊り被遊候

同廿六日 夜ニ入雨降

今朝五前ニ浜松ヲ罷出、袋井へ参着、内々今晚ハ日坂ニ泊
り可申と存候へ共、未家無之ニ付掛川ヲよけ候故、すへニ
袋井ニ一宿仕候

一大殿様今晚ハ金谷ニ御泊り被遊候

同廿七日 大雨昼時分天キ上ル

袋井ヲ夜ルノ八時分ニ罷出、菊川ニ而夜明候、殊外之大雨

也、大井川前ニ而候故、水も出候はん哉と無心許存、右之
通早ク罷出、金谷へ六半前ニ参着仕候処ニはやく参候との
御意ニ而仕合残所無之候

一宿次之御奉書参候ニ付、嶋田へ参候様ニと御意ニ而すへニ
致御供候、嶋田ニ而御奉書御拜見之時分御あいさつ申上、
重畳之仕合也

一大殿様今晚ハ九子ニ御泊り被為成候筈ニ候へ共、雨故藤枝
ニ御一宿可被遊哉との御儀ニ御座候処ニ、天気も上り申候
ニ付、九子へ御通り被為成候ニ付、拙者儀も嶋田も又岡部
迄参、一宿仕候

同廿八日

岡部ヲ五時分ニ罷出、九子へ四時分ニ参着
一大殿様夜前九子ニ御一宿被遊、今日久野へ御参詣被為成、
奥津ニ御一宿被遊候、左候へハ、拙者ハ江尻迄可罷越と存
候処ニ、駿府御番衆江尻ニ御泊り之由ニ付、すくニ九子ニ
一宿仕候

同廿九日

今朝九子ヲ夜の内ニ罷出、阿部川ニ而夜明ル、江尻ニ而休、
蒲原迄罷越候処ニ、油井も原田市十奉ニ而飛札奥津川越申

候処へ到来致拜見候へハ、大野へ御代参心ニ嶋田半三郎被
遣候、拙者も参詣仕度存候ハ、伺公いたし候様ニとの御
意之旨也、先蒲原迄参、蒲原ニ而市十へ之御請認御飛脚ニ
指越、それも支度いたし松野へ日暮候て、参着仕候

一大殿様今晚ハ吉原ニ御一宿被遊候由

同晦日

松野ヲ夜ルの八時分ニ罷出、万沢ニ而も未夜不明候、南部
ニ而休、さかやきなどヲもいたし緩々と致支度、八前ニ大
野へ参着仕候、則行水いたし上下着し、日妙いはい石塔へ
参詣仕、嶋田半三郎所へ使持越候返事相待候処ニ、半三郎
私宅へ被参候ニ付、本院へ半三郎先遣し、其跡ニ致伺公候、
聖人被出御つとめ御座候へ而、半三郎御名代之御焼香相勤
申候、御香莫白銀三枚也、半三郎ハ熨斗めニ長袴着し申候、
右之通相勤候以後、拙者儀も罷出奉拜候様ニと聖人御申候
へ共、半三郎指次ニハ如何と致延慮候へ共、立而罷出候様
ニとの儀ニ付、少間ヲ置御拜前へ罷出、奉拜候銀子壹枚献
上仕候、熨斗目ニ半袴着し申候

一夫も御石塔御前ニ而少御つとめ御座候へ而、半三郎御名代
之御焼香相勤申候、其以後右之通拙者も罷出奉拜候

一夫方丈へ参候、半三郎聖人へ御口上申渡、時服一重被遣候、其以後聖人へ自分之礼申候、ちりめん一卷也、扱吸物盃出、追付退出仕候

一夫方隠居日近へ参候、半三郎御口上申渡、桑染時服へ氷餅一箱被遣候、其以後自分之礼申渡候、是又ちりめん一卷也、扱振廻出、緩々と咄夜ニ入四時分ニ良円庵へ罷帰、又日妙拝前石塔へも致参詣、扱良円庵へ為祝儀銀子壹枚遣し申候、守玄院へも金子壹分遣し申候

五一 江戸出府日記

(表書)
寛文九年

西ノ十月朔日

十月朔日

今朝夜明候と、則御堂御石塔江致参詣、則罷帰日妙いはい石塔へ参詣いたし、六半時分ニ大野出船、岩瀬へ四過ニ着船、吉原江昼時分ニ参着、休候而三嶋へ日ノ暮合ニ参着、一宿仕候

同二日

今朝三嶋ヲ夜明ニ罷出、箱根ニ而休、又小田原ニ而休、夜ニ入六半時分ニ大磯へ参着、一宿仕候
一大殿様今晚ハ藤沢ニ御泊り被遊候由

同三日

今朝大磯ヲ夜の内ニ罷出、ばにう之渡ニ而夜明ル、藤沢へ五時分ニ参候処ニ、未大殿様出御不被遊候ニ付、致御目見候処ニ、はや参候かと御意ニ而仕合残所無之候、嶋田半三郎も其節参、大野ニ而之様子申上候

一大殿様藤沢出御、以後御跡ニ而休、藤沢罷立候処ニ、新宿

ニ御休被成候、内新宿へ參、御出ヲしばらく相待、御跡ニ付神奈川迄參候、内々今晚之泊り川崎へ可參と存候処ニ、

いつもの宿妙遠寺当七月地大ニ而焼失之由ニ付、神奈川ニ一宿仕候

一左京大夫様今日川崎迄御出被為成、御対面被遊御機嫌之御事ニ而、則今晚江戸へ御帰被為成候由

同日四日 終日雨降

大殿様今朝五過ニ川崎御立被遊、品川ニ而少御休被為成、

昼時分ニ江戸へ御着被遊候

一拙者儀夜ルノ七時分ニ神奈川罷出、夜明ニ川崎へ參着仕、

御旅宿之御時分承合、五前ニ御旅宿へ罷出候処ニ、追付御前へ被召出御機嫌も能御座候との御意ニ而仕合残所無之候

一相州様も為御使者鎌田右門兵衛被遣、御看御くわし兩種被進候、其節も御前ニ罷有、御あいさつ申上、扱出御以後御

跡ニ付、致御供御中屋布へ被為入候節も、則御前へ罷出候御手も御のし頂戴仕、忝御意共ニ而早々參、休息仕候様ニ

と御意ニ而追付退出仕候

一尾州様、水戸様、尾張中将様御出被為成、御対面被遊候由、

其節ハ拙者儀帰宿仕、有合不申候

一左京大夫様も為御使者伊与田平左衛門方被成下、忝御意ニ而御看拜領仕候

一御松姫様も真田弥三右衛門為御使、忝御意ニ而御看拜領仕候

一今日ハ御中屋布御殿へ御移徒ニ而御座候ニ付、今日御着之御祝儀、又御移徒之為御祝儀御看兩種指上ケ申候

一大殿様今度之御下向八月廿六日、和歌山御発駕被遊、九月十一日湯山御発駕被為成、為御養生路次ヲも緩々と被為成

御座、今日御当地へ御着座也、拙者儀ハ御跡も緩々と罷立候様ニとの儀ニ而、九月十四日ニ御国罷立、勢州白子ニ而

奉追付、廿一日ぶりニ今日參着仕候

一大殿様長ノ道被為成御座御草臥可被為成候、其上御新宅ニ而御うい／＼布可被為成御座候間、今日ハ御見廻被成間敷由、御老中水野对馬守ニ御申聞、今日ハ御出無之候、此方も必御出御延引可被成由被仰越候

同五日

今日昼前ニ為上使土屋但馬守殿御出、結構成上意ニ而、明日御登城被成候様ニとの御儀也、右為御礼原田市十郎御指

上ヶ被成候

一 上使御帰被為成候と、追付酒井雅楽頭殿、阿部豊後守殿御見廻也、しばらく御咄御座候而御帰候、美濃守殿ニハ御当番故、御同道是なし

一 今度拙者儀御供ニ被召連候段、今日御老中御出候節、御物語被遊候処ニ、明日御供ニ被召連候様ニと御あいさつ之由拙者儀今朝御上屋敷御用人衆部屋迄罷出、昨日大殿様御着之御祝儀、又光御姫様御祝言首尾能相調申候、御祝儀中川七左へ申達、夫ら安宮様御殿へ致伺公、右御祝儀海野五郎三郎ニ申達、自今之御礼なと申上、夫ら左京様へ致伺公御用人西村弥市兵ニ右御祝儀、又昨日御使者被成下候御礼申達、夫ら奥様へも致伺公、右御祝儀申達、扨御中屋敷へ罷出八過迄相詰、夫ら御松姫様へ致伺公、御祝儀申達、又昨日為御使真田弥三右衛門被成下、御看拝領仕候御礼ヲも申上、七時分ニ帰宿仕候、左兵衛殿御玄関迄可参と存候処ニ、松平形部様被成御座候ニ付、真田弥三右衛門頼候而、山内主殿などニ今度御供ニ致伺公候由申達候

一 帰宿仕候と追付安宮様を御使者永井惣右衛門方ヲ以、御看拝領仕候

一 左京様を為御使者佐伯伝五右衛門方被成下、今朝致伺公候へ共、御中屋敷ニ被成御座、御逢不被成之旨被仰下、過分成仕合也

一 因幡奥様を為御使者阿た木儀左衛門方ヲ以、御看拝領仕候

同六日

今朝四のとけいヲ御屋敷ニ而被為聞、御登城被遊候様ニとの御儀ニ而、四過ニ左京様御同道ニ而御登城被為成候処ニ、御首尾能御目見被遊御懇也、上意ニ而御直ニ御のし被進無残所御様子之由、尾州様、水戸様ニも御登城被遊、左京様ニも御目見被遊候、大殿様いつもの所ニ而御駕可被下との御事ニ而、此方ハ御断も不被遊候処ニ、御病者之御事ニ御座候間、中じやく之御門迄御駕ニ被為召候様ニと御老中御城附へ御申渡候ニ付、其通ニ御駕ニ被為召御仕合、残所無御座候

一 公方様江御太刀目録御馬代黄金拾両、御小袖十、御台様江

二種一荷、白銀五十枚御進上被遊候

一 御供ニハ原田市十郎、加納平次右衛門、松平九郎左衛門、福岡太郎八、松下佐五之丞、拙者共ニ以上六人被召連候、去春之通御時服三太刀目録ニ而致御目見候処ニ、まつと罷

出候様ニと上意ニ而過分難有仕合也、其節今度大納言殿致
供罷越候由、雅楽頭殿、豊後守殿、御取成也、其以後右五
人之衆太刀目録ニ而致御目見候

一大殿様御城方御帰ニ御上屋敷へ被為寄、長光様へ御対面被
遊、夫方御中屋布へ被為入、益御機嫌能被為成御座候

一御城方直ニ御老中并伊掃部殿御礼為御名代左京様御越被為
成候

一御城方直ニ御老中へ拙者共御礼ニ致伺公候、土屋但馬守殿、
酒井雅楽頭殿、土井能登守殿、京都ニ御座候へ共、板倉内
膳正殿、阿部豊後守殿、久世大和守殿、稻葉美濃守殿、永
井伊賀守殿、此八人之御衆へ、此順ニ參、今日致御目見候
御礼当番之者ニ申達、夫方御中屋敷へ致伺公御祝儀、又自
分之御礼ヲも申上候

一拙者儀御中屋布方左京様へ致伺公、今日之御祝儀、又昨日
御使者被下候御礼申上、夫方安宮様へ致伺公、今日之御祝
儀、又昨日御使者ニ而御肴致拝領候御礼申上、夫方御用人
衆部屋へ參、今日之御祝儀、又今日御供ニ被召連、御影ニ
而致御目見、過分忝仕合之御礼并井助左衛門方へ申達、八
時分ニ帰宿仕候

一於御城尾州様、水戸様へ致御目見候処ニ、今度御供仕候儀
御懇ニ忝御意ニ而冥加至極成仕合也

一晩方稻葉美濃守殿御出、大殿様御対面被遊、しばらく御咄
御座候而御帰候、其節ハ拙者共有合不申候

同七日

今朝五過ニ宿罷出、久世大和守殿御煩見廻ニ參、夫方板倉
筑後守殿へ見廻申候、御息石見守殿も同屋布ニ御入候故、
其段申置候、今度京都へ立寄、内膳殿へ懸御目候処ニ、一
段御息災成由申置候、佐野福阿弥一昨日私宅へ見廻被申候
ニ付、立寄旁申置、夫方御中屋布へ罷出候、那須玄竹御見
廻候故、御対面被遊しばらく御咄被成候、其節御あいさつ
申、其以後しばらく御前ニ罷有、八過ニ帰宿仕候
一今日尾州様、水戸様、相模殿などへ可致伺公と存候へ共、
御情進日ニ而御座候ニ付、延引仕候

同八日

今朝五過ニ宿罷出、因幡奥様、相州様、壹岐守様へ致伺公、
奥様へ吉野紙、相州様、壹岐守様へ箱肴一種つ、指上申候、
夫方柳生飛彈守殿へ參、しばらく語り、これ方井伊掃部頭
殿へ參、四過ニ御中屋布へ罷出候、飛彈殿ニ而大膳殿、又

右衛門殿へも、今度御供ニ参候由申置候

同十日

一安宮様、ねい御姫様、長光様、御松姫様、左兵衛様、よね姫様、福千代様、左京様、同奥様、大七郎様、源之助様、清御姫様、大之助様へそれ〳〵ニ進上物、今朝以使者御つき〳〵衆迄指上ケ申候、因幡奥様へハ、今朝始而致伺公候故、拙者持参仕候

一今日於御中屋敷、今度光君様御祝言首尾能相濟、又御名之

御祝旁ニ何もニ御酒被下、拙者なども給酔七時分ニ帰宿仕候、内々今日尾州御父子様、水戸御父子様へ可致伺公と存候処ニ、大御酒ニ給酔候故、延引仕候

同九日 晩方少雨降

今朝四前ニ宿罷出、尾張御父子様、水戸御父子様へ致伺公今度御供仕罷越候ニ付、御玄関迄致参上候由、御取次衆ニ申達候、夫ハ左京様へ致伺公、今度私娘祝儀相調候ニ付、菅沼喜右衛門ニ御樽肴、同女共ニ御巻物被下置候由申越承、於拙者過分忝仕合ニ奉存候旨、西村弥市兵へ申達、夫ハ御中屋布へ罷出、八過ニ帰宿仕候
一水戸様ハ尾張様へ参候道ニ而候故、安藤彦四郎殿へ立寄申候、留主故柰殿ニ逢、家来ニも申置罷通り候

今朝四過ニ御上屋敷へ罷出、長光様御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌残所無御座候、御吹出物ハ大形御抱瘡ニ而可有御座と医者衆被申之由御殿ニ而承候、御かほの内ニ七つ八つほと御座候由、三まほと御次へ常のことく御かけ出被為致御目見候、其以後も御いだから被成御出、常のことく之御様躰也

一夫ハ御中屋敷へ罷出候、明日しか弥三左衛門罷上り候ニ付、御前へ被召出御用被仰付候

一昼過ニ為上使板倉筑後守殿御出、御鷹之鶴御拝領被遊候真鶴也、拙者ニ持罷出候様ニと御意ニ而、平次右衛門相手ニいたし、御前へ持罷出候

一右為御礼御城へ左京様御上ケ被為成候、御当番美濃守殿へハ加納平次右衛門御使ニ被遣候

一從中納言様為御使桑山只右衛門被為指越候ニ付、上使御立以後御前へ被召出、御機嫌之御事ニ而御のし被下候、拙者ニもいわひ候様ニと御意ニ而御のし致頂戴、八過ニ帰宿仕候
一左京様ハ為御使者三浦小八郎方被成下、過分忝御意ニ而竹

庵後むかしの御茶一袋并学鯉糟漬、鯉之た、き両種御指添
拜領仕候、就夫御中屋敷方直ニ左京様へ致伺公、西村弥市
兵方へ御礼申達候、於御中屋布御直ニも御礼申上候

同十一日

今朝千宗佐ヲ啐、拙者器ノ口切申候、夫方四過ニ御上屋布
へ致伺公、長光様御機嫌奉伺候処ニ、弥御機嫌残所無御座、
昨日の通御次之間へ御かけ出被為成候ニ付、今日も致御目
見候、昨日ハ御抱瘡ニ而可有之と医者衆申候、今朝抱瘡こ
うしやの医者参、奉見御水痘ニ而可有御座と申候由、庄玄
札などハ今以御抱瘡ニ而可有之と申候由

一夫方御中屋布へ罷出、加納平次右ヲ以拙者壺之茶ニ御肴一
種相添指上ケ申候処ニ、御機嫌ニ被為思召之旨被仰聞、其
以後致御目見、しはらく御前ニ罷有候

一後刻あふみ殿、とさ殿御出之由、拙者など不罷有候而も不
苦候ニ付、八前ニ退出仕候、久野丹州為御使昨日当着ニ付、
御中屋敷方直ニ見廻、夫方諏訪左門殿、同勘兵衛殿、妻木
彦右衛門殿、三枝隠岐守殿へ見廻、帰宿仕候

同十二日 雨降

今朝四前ニ御中屋敷へ罷出候

一今度光御姫様御祝言相済申候、御祝儀之御礼為御使一昨日
久野丹波守当着、昨日御老中廻り申候処ニ、今朝致登城候
様ニとの儀ニ而罷上、首尾能御樽肴指上ケ致御目見候、安
宮様方海野五郎三郎従大殿様、原田市十郎御指上ケ御樽肴
御進上被遊候処ニ、何も丹波守同前ニ首尾能指上ケ御目見
仕、昼前ニ御城方御中屋敷へ参、殿様方大殿様へ御進上之
御樽肴指上ケ、其外御姫様方、左京様、御孫子様方も御
祝儀之御樽肴御上ケ被為成候、何も御使者共御前へ被召出
御のし被下、御機嫌之御事也、其節拙者など御前へ罷出御
あいさつ申上候

一御中屋布方八時分ニ先致帰宿早々支度仕、菅沼九兵衛所へ
今度喜右衛門祝儀之振廻ニ参候、渡部源藏殿、正木甚五兵
衛殿御出候、守随満林も参候、山口宗林被参候、千宗佐勝
手江参候、菅沼半之助、日根野九郎三郎勝手者也、然所ニ
内藤若狭守殿、右之段御聞おしかけて御出、御料理参緩々
と御咄御祝候

一左京様方拙者ニ御使者被成下雁一羽大和撈一折致拜領、其
以後何もへ御使者被遣候節も忝御意也、扨夜ニ入左京様各
へ御対面之ため、与風御出被成緩々と御咄被遊、四時分ニ

御立被為成候、扱各御掃、拙者ハ四過ニ帰宿仕候

一九兵衛所方直ニ左京様御殿へ御礼ニ致伺公候へ共、最早中口もしまり申候ニ付、御用人衆迄も御礼不申達候

同十三日

今朝五過ニ罷出、御上屋敷へ致伺公、長光様御機嫌奉伺、

夫方内藤若狭殿へ参致何角、終ニ御見廻も不申背、本意候

昨晚ハ九兵衛所へ御出、於拙者忝存候由申置、夫方左京様

へ致伺公、昨日之御礼共御用人衆へ申達候処ニ、則達御耳

御前へ被召出、御目見仕重畳忝御意ともニ而、御座敷之御

すまい見申候様ニと被成、御意御中屋布へ御出被為成候、

其御跡ニ而九兵、四郎兵案内ニ而御座敷不殘見申、扱御中

屋布へ罷出候、昨晚御礼ニ罷上り候儀も達御耳、其段今朝

被仰聞候

一大殿様四過ニ御表へ出御被遊、左京様へ御対面被遊候、其

節致御目見、しばらく御前ニ罷有退出仕候処ニ、又御前へ

被召出緩々と罷有八前に帰宿仕候

同十四日

今朝五過ニ為御使數九郎太郎方被成下、今度道中御機嫌能

御着被遊、万事御首尾能御座候、拙者儀能御時分御供仕、

御満悦ニ被為思召之旨、就夫態為御祝儀被下置之旨、過分

忝御意ともニ而御小袖三御紋付三引紋付御鷹之雁一つ御樽肴拜

領いたし、追付御礼ニ罷上り、首尾能御礼申上、良久御前

ニ罷有候

一長光様御水痘御本復被遊、今昼御湯被為懸候ニ付、中屋布

方直ニ長光様へ致伺公御悦申上、則御目見仕候、安宮様へ

も御祝儀申達、夫方御用人衆部屋へも参、右御祝儀申達、

八時分ニ帰宿仕候

一右為御祝儀、大殿様、安宮様、長光様へ御肴一種つ、指上

ケ申候

一御屋布ニ罷有候内、因幡奥様方あた木儀左衛門方被成下、

今度拙者娘祝言相調候、御祝儀と被為成御意、拙者ニ御肴

兩種こんふするめ娘ニ御肴するめわた十把被下置候、就夫致支度七

時分ニ宿罷出、因幡奥様へ御礼ニ致伺公、朝倉三之丞ニ御

礼之段申達、日暮前ニ帰宿仕候、右之節久世大和守殿気色

見廻にも参候

同十五日

今朝四過ニ宿罷出、御上屋布へ致伺公御用人衆部屋へ参、

今日之御祝儀申達、夫方長光様へ致伺公、今日之御祝儀、

又弥御機嫌能被為成御座候哉と申上候処ニ、則御目見仕御機嫌残所無御座候、安宮様へ今日之御祝儀申上、長光様御機嫌能被成御座候而目出度奉存候段、海野五郎三郎へ申達、夫左京様へ致伺公、今日之御祝儀西村弥市兵江申達、夫御中屋布へ罷出候

一讃岐守様御城方御帰ニ御中屋敷へ被成御座候ニ付、御対面被遊候、其節拙者儀致御目見、其以後も御前へ罷出、昼過ニ帰宿仕候

一今晚今度娘祝儀ニ付、菅沼九兵振廻申候頃、左京様方御茶并兩種致拝領候、又昨朝從大殿様呉服、御樽着致拝領候ニ付、今晚幸と右御樽着御茶披キ頂戴仕候、就夫原田市十、加納平次右、鈴木四郎兵も申請候、兼田方約束ニ而菅沼九兵・同半之助、山口宗休、日根野九郎三、以上七人前也、千宗佐も食過ニ参候、九兵家老兩人、上田市左衛門、梅本作之丞にも啐申候、あいさつのため辻村伝兵衛啐うたわせ申候、何も七前ニ被参、夜ニ入四過ニ被罷立候、首尾残所無之候

同十六日

今朝四過ニ御中屋布へ罷出候処ニ、日門様御出被為成候由

俄ニ由来候ニ付、御延引被遊候様ニと双巖院以御断被仰上候へ共、はや出御被遊候、何ぞ御出シ可被成との儀ニ御座候へ共、早々御立被為成候僧正衆其外出家衆御供也

一大殿様御長袴被為召候、左京様ニハ御半袴也、御給仕之小性衆ハ長袴着し申候、拙者共も長袴着し申候処ニ無用との儀ニ而半袴ニ而罷出候

一右為御札加納平次右衛門御上ケ被為成候、拙者儀昼過ニ帰宿仕候

同十七日

今朝四過ニ御中屋敷へ罷出候処ヲ、頓而致御目見候
一大御所様御直筆とも、今日左京様へ御直ニ被進候、其節御あいさつ申上、しばらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候
一今日上野へ為御代参原田市十郎御上ケ被成候

同十八日

今朝四過ニ御中屋布へ罷出候、今日ハ別而のとかニ有之ニ付、瀧之口底江御出被為成候、其節致御目見しばらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一大師御添状軸物ニ仕直し申候ニ付、今日経師や啐候而様子妓誂申候、使鈴木善兵衛

同十九日

大殿様今曉方御不例之由、今早天ニ申来候ニ付、早速御中屋布へ罷上、御様子承候処ニ、今曉少御食傷之様ニ被成御座、夜明迄の内四度御咄送被遊候由、御脈ハ能御座候由、医者衆被申候、就夫昼過迄御殿ニ相詰、先致帰宿、又七過ニ御中屋布へ罷出候

一御腹痛弥被為和、御脈も能被為成御座候由、日暮合前方夜中いかにも少つ、御かゆ被召上候、夜ニ入那須玄竹御見廻候ニ付、御脈御見せ被成候処ニ、御脈も能被成御座候由被申候、良庵指上ケ候御茶之様子良庵物語仕候処ニ、玄竹被存寄候通被申聞被致退出候、拙者儀も四過ニ帰宿仕候

同廿日

大殿様御不例、昨日方今日ハ大分被為得御快氣御かゆなとも、今日ハ乍少宛も度々被召上候、今昼那須玄竹、浅羽長宅、井関玄説など被參、御脈伺被申候、拙者儀今朝六半時分ニ罷出、八時分ニ先帰宿仕、又七半時分ニ罷出、四前ニ帰宿仕候

一今日之御食事、七十め余程の由

同廿一日

大殿様御機嫌昨日方も能被為成御座、御かゆなとも乍少宛次第ニ能被召上候、御脈も昨日方致能被為成御座候由

一今朝新御堂へ初而御入仏也、大野方日近聖人一昨々日被參御法事被致執行候、大殿様ニハ御不例故左京様ヲ御名代ニ御上ケ可被成との御儀ニ候へ共、御風氣故御さかやき御行水不被遊候ニ付、拙者ニ御代參被仰付候、就夫今朝卯ノ刻ニ先御殿へ罷出御機嫌奉伺、夫方出家衆休息前ニ而大紋着し、御堂へ罷上り候

一日近指図ニ而則御名代之御焼香仕、御配膳相勤申候、扱御法事相済、又日近指図ニ而御名代之御焼香仕候、扱出家衆退出之跡ニ而自分之為香典金子壹分指上ケ奉拝退出仕候、夫方右之所へ立寄、大紋ぬき上下着シ御殿へ罷出、今朝御代參相勤候由申上候、頓而致御目見御機嫌奉伺過分着仕合ニ而、四時分ニ先帰宿仕候

一扱支度仕、七前ニ罷出、暮合ニ又致御目見、五時分ニ帰宿仕候

一今昼浅羽長宅被參御脈伺被申候由、其節ハ拙者ハ有合不申候、夜ニ入那須玄竹、渋江長意被參御脈伺被申候、何も御脈能御座候由被申候

一今日之御食事、八十め余程の由

同廿二日

大殿様御機嫌今朝少御腹中御水瀉被遊候、其以後も兩三度御水瀉ニ而候へ共、次第ニ色能御座候、今昼玄竹、長宅、

井上玄哲御脈伺被申候、何も御脈能御座候由被申候、玄哲ハ今日始而御脈伺被申候、今日ハ御かゆニ少御食ヲも御味噌汁ニ而被召上候故何も奉悦候、拙者儀今朝六半時分ニ罷出、先八時分ニ致帰宿、又七半時分ニ罷出、四時分ニ帰宿仕候

一左京様方御国へ為御使三浦小八郎今晚被仰付被遣候、是ハ御状ニ而ハ具ニ御様躰難被仰越との御事ニ而、右之通也

一今日之御食事、六十め余程の由

同廿三日

大殿様御機嫌今日ハ御大給ニ被成御座候、御腹中之御瀉大形御止被為成、御かゆ御食も少御味噌汁ニ而被召上候、御脈次第ニ能被成御座候由、那須玄竹、井上玄哲、渋江長意、浅羽長宅、何も同時ニ伺候而被申候、尤御腹中之御痛も能被成御座候、追付御本復可被遊と奉上悦候

一今昼時分尾州様、同中将様、水戸少将様御出被為成候、左

京様御対面被遊候、大殿様御病躰之儀しばらく御咄被成御

立被為成候、水戸様ニハ御病氣故御出不被為成候、拙者儀今朝卯ノ刻ニ罷出、八過ニ致帰宿、亦暮合ニ罷出、四過ニ帰宿仕候

一今日之御食事、六十め余程の由

同廿四日 雨降

大殿様御機嫌昨日も弥能被為成御座、御脈も能被成御座候由、医者衆被申候、今朝拙者も致御目見候処ニ、御機嫌能御様躰ニ而奉上悦候

一今昼之内公儀之御医者衆も被参、御脈伺被申候処ニ、弥能被成御座之旨被申候由、拙者儀今朝日出時分ニ罷出、四過ニ先致帰宿、又七過ニ罷出、五過ニ帰宿仕候、公儀之御医者衆被参候節ハ、御屋布ニ有合不申候

一晩方水戸様方為御使藤田将監御越被為成候、是ハ御病氣故昨今御見廻不被成候ニ付而の儀也、則左京様御対面被遊御歸し被成候、其節拙者御あいさつ申上候

一今日之御食事、六十め余程の由

同廿五日

大殿様御機嫌弥能被為成御座、御膳も頃方御快被召上候、

御脈弥能被成御座之旨医者衆被申候、今朝致御目見候処ニ、
此中とハ格別之御機嫌能御様躰ニ而奉上悦候

一 今昼公儀之御医者衆も被參、御脈伺被申、弥能被成御座之
由被申候由、拙者儀今朝六半時分ニ罷出、昼前ニ御屋布罷
出九兵衛所へ見廻昼過ニ帰宿、又暮合ニ罷出、五過ニ帰宿
仕候

一 今晚之御脈ハ大形御平脈程ニ被成御座候由、医者衆被申候
一 從中納言様、長光様、御水痘ノ儀ニ付、斎藤半藏御使ニ被
指越候、就夫今夜御前へ半藏被召出、御直ニ御返事被仰聞
候程之御機嫌ニ而何も奉上悦候

一 今日之御食事、九十め余程の由

同廿六日

大殿様御機嫌弥能被為成御座、御脈も弥能御座候由医者衆
被申候、御膳も少つ、御快被召上候、昼時分ニ長宅も被參
御脈伺被申候処ニ、弥能被成御座之由被申候、拙者儀今朝
六半時分ニ罷出、昼時分先致帰宿、又暮合ニ罷出候

一 今晚六半時分ニ致御目見候処ニ、御機嫌残所無御座、其上
左京様ニ御酒被召上候様ニ拙者式ニも御酒給候様ニとの御
意ニ而、左京様御前ニ而数皿被下千秋万歳と奉祝、五過ニ

帰宿仕候

一 先日誹候大師御添状軸物ニ致出来、今晚七過ニ善兵衛請取
罷帰候

一 今日之御食事、六十め余程の由

同廿七日 時々雨降

大殿様御機嫌弥能被為成御座候、拙者儀今朝六半時分ニ罷
出候処ニ、頓而致御目見候御膳も御快被召上候ヲ承、四過
ニ先帰宿仕、又暮合前ニ罷出候

一 一夜ニ入六半時分ニ亦致御目見、御機嫌弥能被成御座候、御
様躰奉見御脈も今晚ハいかにも御平脈之由、医者衆申候ヲ
承、五時分ニ帰宿仕候

一 今日之御食事、百目余程の由

同廿八日 雨降

大殿様御機嫌弥能被為成御座、御脈も尚以能被成御座候由、
医者衆被申候、拙者儀今朝六半時分ニ罷出、追致御目見
候処ニ、御機嫌能昨夜ハ能御しんならせられ候由被仰聞
候、御膳も今日ハ弥御快被召上候、拙者儀昼時分ニ御中屋
布罷出、左京様へ御礼致伺公、夫方御上屋敷へ罷出、安宮
様、長光様へ御祝儀申上、御用人衆部屋へも參、八前ニ帰

宿仕、又暮合ニ罷出五過ニ帰宿仕候、御機嫌弥能被為成御座御平脈之由、医者衆被申候

一 今日之御食事、九十め余程の由

同廿九日

大殿様御機嫌弥能被為成御座、御脈も打つ、き能被成御座候由、医者衆被申候、昼前ニ長宅も被參、御脈何被申候、御食事も御快被召上候、拙者儀今朝六半時分ニ罷出、頓而致御目見候処ニ、猶に御機嫌能被為成御座候、昼前ニ先帰いたし、又暮合ニ罷出、五時分ニ帰宿仕候

一 今日之御食事、八十め余程の由

同晦日

大殿様御機嫌弥能被為成御座候、先日御写し留候、以後七日めニ今日始而御快御通し被成、一入御機嫌能被成御座、御脈も残所無御座由、医者衆被申候

一 八時分爲上使松平民部殿御出、御くわし一箱被進候、但龍がんにく也、頃御気色悪布被成御座候由、御友不被遊上使ヲも不被進候由、結構成上意之由、右ハ此度之御不例いかにもかろき儀ニ御座候、自然脇方御聞被成候ハ、可被達上聞ニも候哉、いかにもかろき儀ニ御座候間、各ニも必御使

者ヲも不被指越候様ニと、先日左京様方稻葉美濃守殿迄御内証被仰候故、今日右之通也

一 右上使へ左京様御対面被遊上意ヲも被為聞、又御請ヲも被仰達候、扱上使御帰之上、則為御礼左京様御登城被遊候

一 拙者儀今朝五時分ニ罷出、追付致御目見候処ニ、御機嫌能次第ニ被為得御快気候、今晚ハ御快御しつまり被為成候間、心安可奉存之旨御機嫌能被為仰聞候

一 八前ニ拙者儀先帰宿仕候処ニ、右上使御座候由承、則罷出上使へ懸御目、扱又帰宿いたし、七過ニ菅沼九兵衛所へ參候、是ハ山口正与夜ニ始而知人ニ成候故也、然所ニ早々被為召候由、浅井駒之助、成田八大夫方方兩度迄被申越候ニ付、早速罷出候

一 然所ニ頃之御しんじる方口ノ御座布へ御上下被為召御出被為成、先刻御拝領被遊候御くわし御頂戴被成候而之上、其儘被成御座候所へ罷出候ニ付、驚申候へハ、今日之上使ニ御対面不被成候段、御残念至極ニ被思召候旨、くれ／＼被為成御意市十郎、平次右衛門などニも御た、り被成候品被仰聞、兩人も迷惑仕罷有候、左京様ニも御迷惑被遊候御様子也、然所へ拙者罷出候へハ、右之御様子ニ而御機嫌いか、

と奉存候故、今日之御首尾残所無御座、尤御気色御快気ニ

而ハ御座候へ共、未透と御本復不被遊、其上御草臥被為成、

中々御表迄出御可被遊御様子ニ而無御座候、又御あん所へ

上使御通可被成御様子ニ而無御座候所ニ、ケ様ニ被為成御

意御上下ニ而是迄出御被遊、御長座之儀御もうたいも無御

座御事と立而申上候へハ、左様ニ存候哉との御意ニ而、御

機嫌もなをり御前罷立候、左京様ニも御快之御事也、扱此

中之ことく直ニ御取ニ罷有、五前ニ帰宿仕候

一今日之御食事、六十め余程の由

五二 江戸出府日記

(表紙)

寛文九年

丑ノ閏十月朔日

閏十月朔日

大殿様御機嫌弥能被為成御座候、今日も御大よう御快御通
し被成、尚以御機嫌能被為成御座候

一昼前ニ那須玄竹被參、御脈伺被申候処ニ、弥能被成御座候

由被申候頃ハ寒申候間、かむり被申候様ニと御頭巾ニ、御

手を被遣忝がり被申候

一今度光君様御祝言相済候、為御祝儀一条様、通君様、光君

様ヲ御使者御越被成、廿八日ニ公儀へ之御札相済、今日大

殿様、安宮様、左京様へも右使者被參候

一一条様ヲ御太刀目録銀馬代ちりめん五卷、御使者堀川近江

一禪閣様ヲ御肴一箱、御使者同人

一禪閣様御内宝様も御肴一箱、御使者同人

一前右大臣様ヲ御太刀目録銀馬代、御使者同人

一通君様ヲ五百疋御肴一箱、御使者谷川儀左衛門、是ハ新太

殿方御付之衆ノ由

一 光君様方三種二荷、御使者佐治弥五兵衛右之通也、大殿様ニハ御病中故御対面不被遊、左京様御出御対面被遊候、右御進物ハ其前対馬守罷出、請取申候御返事ハ重而可被成御意由、左京様御あいさつニ被仰聞候

一 右之御使者何も子持筋之小袖ニ長上下也、此方ニ而も右之通可然との儀ニ而、拙者ハ子持筋着シ候へ共、対馬守着し不被申ニ付、兩人之内一人着シ候ハハ如何と存、拙者ハ長上下ぬき候て、半袴着し、御勝手ニ罷有候

一 拙者儀今朝五時分ニ罷出、則致御目見今日之御祝儀ヲも申上、扱支竹被參候節も致御目見、八前ニ御中屋布罷出、左京様へ今日之御礼致伺公、夫方御上屋敷へ罷出、安宮様、長光様へ今日之御祝儀申上、夫方御用人衆之部屋へも參、八時分ニ致帰宿、又暮合ニ罷出致御目見、五前ニ帰宿仕候一今日之御食事、百目余程の由

同二日

大殿様御機嫌弥能被為成御座、今朝拙者儀五時分ニ罷出、追付致御目見候処ニ、御機嫌能被為成御座、御脈も残所無御座由、医者衆被申候、就夫四過ニ帰宿仕、又暮合ニ罷出、

五時分ニ帰宿仕候

一 今日之御食事、九十め余程の由

同三日 夜ニ入雨降

大殿様御機嫌弥能被為成御座、御脈も能被成御座候由、医者衆被申候、拙者儀今朝五時分ニ罷出、頓而致御目見候処ニ、御機嫌次第ニ能被為成御座之由被為仰聞候、扱昼前ニ帰宿仕、又暮合に罷出、五過ニ帰宿仕候
一 公方様今日すみ田川辺へ御鷹野ニ被為成候由
一 今日之御食事、九十め余程の由

同四日

大殿様御機嫌弥能被為成御座候、拙者儀今朝五時分ニ罷出頓而致御目見候而し、バらく御前ニ罷有候
一 大殿様御気色御本復故、今日始而表御座之間へ出御被遊候一昼時分ニ為上使大久保出羽守殿御出、昨日公方様御拳ニ而被為取候御鷹之白雁一羽御拝領被遊候、則御座之間ニ而御頂戴被遊候、右御鷹之鳥拙者持罷出候、右為御礼左京様御上ケ被成候、昨日之御物數五十余ニ御座候つる由、御拳ニ而ハ白鳥一ワと右白雁一ワと已上二ワ御合被為成候処ニ、白鳥ヲハ林子平へ御上ケ、白雁ヲハ大殿様へ被進候由、誠

以結構成御様子也

一 昼過ニ拙者帰宿仕候、今晚山口正与夜私宅ニ而振廻申候、菅沼九兵斗相客也、道具共見せ申候、又日暮候て罷出、頓而致御目見、今日之御祝儀申上、扱何も寄合大御酒被下、四過ニ帰宿仕候

一 右為御祝儀御肴一種指上ケ申候

一 今日之御食事、百五十め余程の由

同五日

大殿様御機嫌打つ、き能被為成御座候、拙者儀昨晚之御酒故、今朝ハ四前ニ罷出、昼時分ニ御屋布罷出、左京様へ致伺公、昨日之御悅御用人衆迄申達、帰宿仕候

一 八前ニ御上屋敷へ罷出、御用人衆部屋へ参、昨日之御祝儀申達、夫ハ土岐縫殿殿へ振廻ニ参候、渡部源藏殿御出、菅沼九兵、土岐宗見、野本幸加相客也、緩々と語り、夜ニ入五過ニ帰宿仕候、最早今晚ハ御中屋布へハ不罷出候

一 今日之御食事、百目余程の由

同六日

今朝五過ニ罷出、追付致御目見候処ニ御機嫌弥能被為成御座候

一 今晚一条様、通君様御使者、於御中屋敷御振廻被為成、為

御名代左京様御出御返事被仰聞候由、拙者儀先日不罷出候故、今日も其通ニいたし、昼時分ニ帰宿仕、八時分ニ渡部源藏殿へ振廻ニ参、夜半過ニ帰宿仕候

一 今晚ハ茶湯ニ而御座候、其以後取うり之道具とも見申、扱幸若ハ左衛門、同権左衛門舞承候、八鳴也

同七日 暮合ニ雨降、風吹

今朝五過ニ罷出、追付致御目見候処ニ、御機嫌弥能被為成御座候

一 大殿様御機嫌御伺之ため、為御使菅沼喜右衛門被為指越、昨晚参着仕候、就夫今日御前へ被召出御口上被為聞候、此段相濟、昼過ニ帰宿仕候

一 最早何も御夜詰ニハ不罷出候様ニと玄関ニ被仰出候へ共、今晚ハ俄風吹雨もふり候ニ付、暮合ニ罷出、御機嫌奉伺、夫ハ喜右衛門為見廻九兵所へ参候へハ、兩人共ニ留主ニ而則五前ニ帰宿仕候

同八日

今朝五過ニ罷出、御機嫌伺申候処ニ、弥御気色能、御膳も御快被召上候由、昼過ニ帰宿仕、最早今晚ハ不罷出、市十、

平次右迄御機嫌為何、以使者申達候

同九日

今朝五過ニ罷出、頓而致御目見候処ニ、御機嫌弥能被為成御座之旨被為仰聞候、御膳被召上候ヲも奉伺、昼前ニ帰宿仕候、夜ニ入、市十、平次右迄御機嫌為何以使者申達候

同十日 八時分少雨降

今朝五過ニ罷出、追付致御目見候処ニ、御機嫌能被為成御座之旨被為仰聞候、今晚私宅へ客有候ニ付、追付四前ニ帰宿仕候

一今晚之客衆ハ先月廿六日私宅へ御出候筈ニ候へ共、大殿様御不例故相延申、先日渡源藏殿ニ而約束仕、今晚申請候、左候へハ酒作右殿、渡源藏殿、長清太殿、正甚五兵殿迄之筈ニ而候処ニ、渡八郎左衛門殿、嶋弥太郎殿、山口正与夜其座ニ御有合候故、此衆へも約束仕候、右七人也

一内藤若狭守殿、田中大隅守殿、あなた方与風おしかけ御出候、小嶋助左衛門殿も与風御出候、若狭守殿ニハ御番故、何も之膳過不申内、七過ニ御立候、此御客衆ハ今度菅沼九兵衛と縁者ニ罷成候祝儀ヲ御ふくミ候也、喜右衛門も頃御使ニ參、此振廻ニ出合、首尾残所無之候

一今晚も夜ニ入、御機嫌為何市十、平次右迄以使者申達候

同十一日

今朝五過ニ罷出、追付致御目見候処ニ、昨晚御行水被遊、弥御機嫌能被為成御座之由被仰聞候、重量目出度奉存之旨申上、昼前ニ帰宿仕候

一内藤若狭守殿、田中大隅守殿昨晚私宅へ御出候、為礼今晩七前ニ宿罷出參候、其節村越道半老へも先日御出候礼ニ參候、將又久世大和守殿気色見廻ニも大殿様御不例故、頃久布不參候ニ付、今晚大和殿へも見廻申候

一ゑぞ之儀去月廿三日四日、松前兵庫殿手勢ニ而ゑぞとも打とり、上下五十人余からめとり落着仕候由、松前八左衛門殿方津輕越中殿へ申来候由、就夫越中殿方今月六日之日付ニ而注進有之由、就夫御奉書今日被遣候由

一今晚夜ニ入、御機嫌為何市十、平次右迄以使者申達候
同十二日 昼時分少雨降
公方様今朝四時分ニ御鷹野ニ被為成候、私宅門外御通被為成候青山宿の方へ被為成候、還御ハ何方方被為入候哉、七時分ニ御鷹とも赤坂御通り候
一今朝五過ニ御屋敷へ罷出、頓而致御目見候処ニ、御機嫌能

被為成御座之旨被仰聞候、昼前ニ御屋布罷出、岡野内藏丞殿、同孫九郎殿へ今度ハ未見廻不申、其上先日御出候礼旁

ニ參候、内藏丞殿ハ御番ニ而留主也、孫九郎殿ニ而しバラく語り、夫々渡部八郎左衛門殿へ參候、是ハ終ニ見廻不申、

其上一昨日始而私宅へ御出候ニ付旁ニ參候、是も留主ニ而中置罷通り、小嶋助左衛門へ參候、是ハ今度始而知人ニ罷

成候処ニ、一昨日あなた方御出候ニ付、其為礼參候、是も留主ニ而申置、夫々沼間新五へ參候処ニ、還御之由ニ而人

ヲも留候様子ニ御座候ニ付、番丁へ戻り、し水谷へ懸り罷戻り候処ニ、是も未人通し不申様子ニ候故、御上屋布ニ而

真鍋五郎右衛門長屋へ玄寄、良しバラく咄候て、七過ニ帰宿仕候

一今晚も夜ニ入、御機嫌為伺市十、平次右迄以使者申達候
同十三日 雨降

大殿様御機嫌弥能被為成御座候、拙者儀今朝ハ頃始而四時分ニ緩々と罷出、八過ニ帰宿仕候
同十四日 時々雨降

大殿様御機嫌弥能被為成御座候、拙者儀今朝五過ニ罷出、

昼前ニ帰宿仕候

一今度昔沼喜右衛門御使ニ罷越候ニ付、今晚私宅ニ而振廻申候、幸と九兵、九郎三振廻申候、半之助ハ風氣故不被參候、

真鍋五郎右衛門、宗佐啼申候
同十五日 終日小雨降

今朝四時分ニ罷出頓而致御目見候処ニ、一入御機嫌能被為成御座候、しバラく御屋布ニ罷有、八前ニ帰宿仕候、今日

之為御礼御上屋敷へも罷出、安宮様、長光様へ御祝儀申上、御用人衆部屋へも參、左京様へも致伺公、西村弥市兵ニ御祝儀申達候
同十六日

今朝四時分ニ罷出、御機嫌奉伺候処ニ、御機嫌弥能被為成御座、御膳も御快今日迄四日ハ打つゝき、むらなく被為召上候由、しバラく御屋敷ニ罷有、八前ニ帰宿仕候
同十七日

拙者今日ハ風氣故不罷出候
同十八日

拙者儀風氣未爾と無之ニ付、今日も不罷出候

一夜ニ入、為御使田屋龜右衛門方被成下、過分忝御意ニ而氣分の儀御尋被為成候、就夫者為御礼市十、平次右迄以使者

申達候

同十九日

拙者儀風氣未透と無之候へ共、少御用も御座候ニ付、今朝
昼前ニ御屋布へ罷出、八前ニ帰宿仕候処ニ、追付為上使本
多土佐守殿御出之由、就夫拙者儀罷出候様ニと之御意之旨
鳥居五右衛門方被申越候ニ付、上使御出前ニ罷出、御帰
以後もしばらく御屋布ニ罷有、七過ニ帰宿仕候、右之上使
八頃寒氣ニ付、御気色御見廻之上意之由

一御屋布へ罷出候前、日近へ見廻帯刀留主へも見廻、夫ら御
屋布へ罷出候

同廿日

今朝四過ニ罷出候処ニ、頓而表御座ノ間へ出御被遊、致御
目見しばかり御前ニ罷有、昼過ニ御屋布罷出、日近へ見廻、
八過ニ帰宿仕候

同廿一日

今朝御堂ニ而之御法事如例御経三卷御座候、日閑聖人も御
出候、右御経二卷めニ左京様御配膳御勤被成候、御経相濟
候而御名代之御焼香拙者相勤申候、扱左京様御自分之御焼
香被遊、御退出すくニ御殿へ御出被為成候、拙者儀御跡方

御殿へ罷出、今朝御名代之御焼香相勤申候旨、夜前之奉丹
羽郷左ニ申達、帰宿仕候

同廿二日

今朝五過ニ宿罷出、永井日向殿へ見込、夫ら坂部三十郎殿、
阿部長徳院、同養貞、酒井良庵へ先日御出候御礼返しニ參、
夫ら高野道入へ礼返しニ參、三浦志摩守殿へも見廻、扱御
中屋布へ罷出、八時分ニ帰宿仕候、長徳院道入ニ而ハシバ
らく語り申候

一昼過ニ左京様へ為上使川口源兵衛殿御出、御鷹之雁二つ御
拝領被成候

同廿三日

今朝四前ニ罷出御機嫌奉伺、昼過ニ帰宿仕候
一今晚正与夜振廻申候、先日のごとく菅沼九兵斗啐申道具共
見せ申候、宗佐ハ障入候て、茶之時分ニ參候、八時分方夜
ニ入候迄緩々と語り、夜半前ニ帰り被申候

同廿四日

今朝昼前ニ罷出、御機嫌奉伺、八前ニ帰宿仕候
一今朝増上寺へ為御代參松平九郎左衛門御上ケ被成候由
一広幡殿御遠行被成候ニ付、今朝尾州様、同中将様御玄関迄

伺公仕候

同廿五日

今朝四時分ニ罷出、御機嫌奉伺、昼過ニ帰宿仕候

一日近聖人、日榮聖人、千寿院隠居、心行院ヲ今晚振廻申候、

八時分ニ御出、夜ニ入六半時分ニ御帰候、真鍋五郎右衛門

斗勝手者成

同廿六日

今朝四時分ニ罷出候、昼時分ニ御座之間へ出御被遊、首尾

能致御目見、昼過ニ帰宿仕候

一八時分ニ永井日向殿私宅へ御見廻、しばらく御咄、頓而御

帰候

一先日方之約束ニ而、今晚菅沼九兵へ振廻ニ参候、今度大殿

様御不例ニ付、先日菅沼喜右衛門為御使御当代へ被為指越、

今日御返事被仰聞、明日御当地罷立筈ニ御座候、就夫幸暇

乞、旁ニ而緩々と咄夜ニ入、四時分ニ帰宿日候、今度始而

日婦ニも今晚逢申候

同廿七日

今朝八少司所御座候而、例方おそく昼時分ニ罷出候処ニ、

中天竺ノ人太友と申医者参候ニ付、表御座ノ間へ出御被遊

右之医者御前へ被召出候、其節御あいさつ申上、しばらく

御前ニ罷有、八時分ニ帰宿仕候

一菅沼喜右衛門昨日御暇被下、今朝四前ニ私宅へ立寄、暇乞

いたし罷立候

同廿八日

今朝四過ニ罷出、御機嫌奉伺、八前ニ帰宿仕候

同廿九日 晩方少雨降

今朝四過ニ罷出、御機嫌奉伺、八前ニ帰宿仕候

一明日ハ冬至ニ而御座候間、今明日中ハ御表へも出御不被遊、

とくと御養生被遊可然之由、医者衆申上候由

